

自強会だより



変わらぬ
伝統と
文化

今も

あ の と き 手 を つ な い だ

あ の 人 は 今 …



体育大会 フォークダンス 写真撮影 北村写真室

母校支援こそ同窓会の基軸！



同窓会会長

竹内 信六しんろく (高13回)

明石大門おおと(海峡)が陽光に輝き、海を渡る風に、ふと初夏の匂いを感じます。自彊会会員の皆様には、ご清祥にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より同窓会の活動にご理解とご協力をいただいておりますことに心より感謝いたしております。

さて、3月19日には、母校におきまして入学試験の合格発表がありました。72回生として入学してくる後輩たちの喜びの声を聞きながら、「同窓会として後輩たちに何ができるだろうか」と自問してしまいました。卒業生の力を結集し、母校支援を行えば、後輩たちが充実した3年間を過ごせると信じています。3年後には、「明高に来てよかった」の声が聞けるよう、同窓会の総力を母校へ注ぎたいと思います。

母校は1923年に創立されました。100周年まであと6年。まだ随分先のようなのですが、役員会で話し合い、時間を充分かけて『百年史』を完成させよう、そして、母校の歩みをたどることができ、貴重な資料を後世に残せるよう資料館の充実を図ろうと、役員会で満場一致で決定いたしました。本誌の3ページに詳細を掲載しておりますのでご覧下さい。

同窓会活動の一層の活性化と充実のためには、資金が欠かせません。是非、会費納入にご協力をお願いします。



もくじ

会長あいさつ	1
校長あいさつ	1
平成29年度総会案内	2
ひととき	2
100周年へのスタート	3
学年同窓会交歓	4
同窓会入会	9
自彊不息	10
支部だより	11
支部活動同窓会	12
明中・明高ゴルフ会	13
13回生関東同窓会	13
人事異動	14
進路状況	15
大学合格者の声	17
自彊セミナー報告	18
部活動報告	19
部活成績・記録	20
決算報告・事業報告	22
おくやみ	25
同窓会役員・お知らせ	26
事務局より	27
	28

一燈照隅 三萬二千六十五燈照国

第24代校長

蔭 木 原 洋



自彊会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にお過ごし

のこととお喜び申し上げます。このたび、永井邦治前校長先生のあとを受けまして、創立94周年、32,065人の卒業生を誇る伝統ある明石高校の校長を拝命いたしました蔭木原洋でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

教育の世界では「よい先生を選べ、よい友を選べ、よい土地を選べ」ということを言います。この言葉は明石高校にびつたりの言葉です。私はいろんな教育活動の場面で明るく笑顔で活動する本校生を見て、明高は、信頼の「信」という文字で、生徒と先生、保護者、OB、地域が結ばれている学校だと嬉しく思っています。「信」という字は、訓読みで、「のびる」という読み方と、もう一つは、「まかせろ」という読み方があります。生徒、先生、保護者、地域の方々、そして何よりも自彊会の皆さんが明高生みん

なのことを信頼して、任せるからこそ、その人間は伸びていきます。明石高校も伸びていきます。

私は、今日まで、幾人もの自彊会の皆さん、そして関係者の方々にお会いしました。皆さんに感じたことは、皆さんいろんな世界で、社会の一隅を照らすために懸命に黙々とお仕事をしています。それらに黙々と知られまいと、評価されようがされまいが、決して嘆くことなく、怒ることなく黙々と明日を拓く仕事をなさっています。本当に皆さん「偉いな」と感じさせる人ばかりです。

私の言う「偉い人」というのは、人間としての生き方の偉さです。私はこれからの明高生にも是非そういった人間になってもらいたいと思っています。

われわれ教職員・生徒一同は、来るべき100周年に向け、自彊会の皆さんが築かれた素晴らしい歴史と伝統の基礎の上に、明石高校の更なる発展のために努力してまいりたいと思っておりますので、宜しくご指導、ご鞭撻の程お願いいたします。

平成29年度総会のご案内

左記にありますように、定例総会を開催いたします。多数ご出席頂き、忌憚のないご意見をお聞かせ下さい。

記

- 期日 平成29年6月24日(土)
- 時間 午前10時(受付は9時45分より)
- 会場 生涯学習センター学習室704B (アスパシア北館7階)
- 次第 ①会長あいさつ ②議案審議 ③質疑応答 ④その他

本年は懇親会の年ではありません。来年は明高1・2回生の皆さんを迎え懇親会と米寿を祝う会を行なう予定となっております。

※会場は母校ではありませんので、ご注意ください。



ひととき



「若者よ。本を読もう。もっと本を読もう。」
「老人よ。外へ出よう。もっと外へ出よう。」
最近、自分を顧みて、思うことだ。この小欄を書こうと思ってペンを持って、新しい話題を提供できない。何故かと問うてみたところ、出かけて新しいことに出会ったり、発見したりする機会を、このところ持つことができていないからだ。

日常の生活の中でも、季節の移り変わりの発見や、台所に立ったり片づけをしたりする中で、楽しさも味わっている。しかし、それらが自分を成長させることや、未来へのワクワク感とは繋がりにくいのだ。

こう考えてみると、人はいつだって成長したい、前向きに歩んで行きたい、と思っていないのではないか。歳をとったからと終末期に向けてなど、みんなが同じ方向に考えなくともいいのではないか。

老人は、外へ出かけて行き、新しい出会いや発見にワクワクし、若者は、本を読み、先人の智慧を学び、両者とも未来に向かって、生きることを楽しむのではないかと、思うのである。
(幸)

学校創立100周年『準備会』発足

100周年準備会

母校は、今年で創立94年を迎えました。

100周年まであと6年、100周年は大きな節目です。近づかねば準備できないものもありますが、充分に時間をかけて取り組まねばならないものもあります。

前永井校長の了解をいただき、充実した「百年史」を編纂するため、同窓会が主体となって作業を始めることとなりました。また、明中・明高の歴史が「見てわかる」ように、「資料館」を整備する取組みも学校と連携して進めてまいります。会員皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

準備会委員

- 代表 竹内 信六 (高13回)
- 委員 蔭木 原洋 (校長)
- 嘉藤 弘之 (高15回)
- 伊川美智子 (高16回)
- 佐々木卓郎 (高18回)
- 吉田 眞司 (高21回)

「百年史」編纂委員会

一世紀に及ぶ百年史編纂は記念事業の中核であり、100年を迎える学校では、それぞれに工夫されたものが作成されています。明中・明高の誕生から百歳までの歴史を、わかりやすく、正確に残したいと考えます。内容の企画・構成から資料収集・執筆、最終校正まで緻密な作業が必要です。

委員会発足の当初は、少人数での取組みとなりますが、作業が本格化する中で多くの皆様のご協力を得ながら進めてまいることになるでしょう。卒業生会員だけでなく、特別会員である現職員の諸先生はもちろん、旧職員の先生方にもご尽力をお願いする所存です。明中・明高に関わられた皆様のお力添えがあつてこそ、百年史が完成すると思っております。

- 委員長 佐々木卓郎 (高18回)
- 委員 藤本 雅人 (教頭)
- 木下 淳一 (旧職員)
- 佐伯 敏裕 (高24回)
- 鷺森 智美 (高38回)



「資料館」整備委員会

卒業生にとって思い出深い「山内図書館」が校舎建設に伴う工事で行き壊されたあと、県教育委員会のご厚意で資料館が建設されました。山内図書館の面影を残すように配慮がされた建物です。校内に独立した資料館をもつ学校は少なく、恵まれた設備と言えます。しかし、残念なことに明中・明高の貴重な資料が十分保管され、引き継がれていないのが現状です。



資料館



100周年を機に、資料の収集・保管と同時に、分かりやすく明中・明高の歴史がたどれるように資料館を充実、整備したいと考えます。短時間でできることではありませんので、当面、同窓会と学校が連携を取りながら、資料収集を行うこととなりました。

- 委員長 吉田 眞司 (高21回)
- 委員 原田 浩一 (事務長)
- 丹野 孝広 (現職員)
- 山中 良秀 (現職員)

お願い

準備会代表 竹内 信六

「百年史」編纂、資料館の整備を進めるにあたり、会員の皆様が所有される資料を寄贈いただければ、と思っております。卒業アルバムも卒業段階には各学年一冊ずつ保管されていたのですが、現在左記の学年分が揃っておりません。

- 中学12回生 中学13回生
- 高校10回生 高校24回生
- 高校27回生 高校31回生
- 高校32回生 高校38回生
- 高校39回生 高校40回生
- 高校41回生 高校45回生
- 高校46回生

責任を持って保管いたしますので、寄贈いただける方がありましたら、ご連絡をお願いいたします。

また、明中・明高に関わる品物、例えば学級文集、昔ありました愛唱歌集、制服・制帽、部活動の賞状やユニホームなど、お持ちの物がありましたら寄贈をお願いいたします。

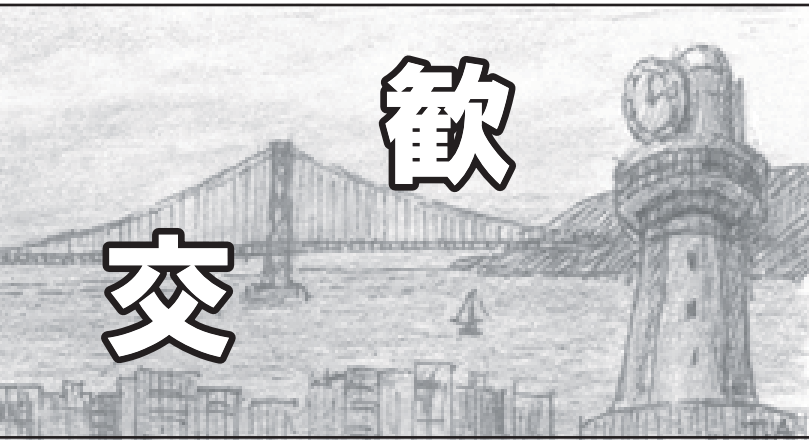
寄贈に当たり、送料などが発生すると思われまますので、詳しくは同窓会事務局又は明石高校へご連絡をお願いいたします。

同窓会事務局(078・913・6554)
事務局は常駐でないため不在時は
明石高校事務局
(078・911・4376)へ

長寿の15人を祝福

中19、20回生を対象に「米寿を祝う会」

二年に一度の恒例行事となっている「米寿を祝う会」が平成28年6月18日、グリーンヒルホテル明石で華やかに行われ、対象となる中学19回生（195年3月卒）のうち6名と20回生（196、197年3月卒）のうち9名の計15名が祝福を受けた。おそらく他校では見られない催しで、自彊会総会の後、「教え」「満」88歳にえられる大先輩たちを総会出席の会員ら63名が長寿を祝福した。



イラスト・安藤 勉 (中18回)

記念撮影の後、各テーブルでは中学生時代に語り、話しに花が咲いた。中にはご夫婦で出席された方もおられた。出席者を代表して20回生の川崎強志さんが謝辞を述べた。20回生の勝野浩一さんは得意のハーモニカで「荒城の月」を披露され、出席者には、お土産としてお酒「自彊不息」と、校舎と校章の焼き印入りオリジナルの煎餅とを贈った。

住所判明者162名に招待状を送付したが、欠席の返信のあった方には後日、煎餅をお送りした。出席者から丁寧なお礼の封書、葉書、電話をいただいた。

なお、高校1回生、2回生は来年が対象年となる。理事会で慎重に討議した末、形を少し変えてこの伝統催事を継続させることにした。



米寿を迎えて

中学二十回

藤田 坦 康

平成28年11月16日（水）西明石のホテルキャッスルプラザにおいて最後の同窓会を開催しました。

私たち20回生は、終戦時16歳（中学4年）で川崎航空機（現川崎重工明石工場）にて学徒動員中で、工具さんと共に働いておりました。当時は食糧難で工場支給の大豆粕弁当で飢えに耐えた絶望の時季を共にした間柄で、特に同級生の絆が強かったように思われます。

卒業後は、数年おきに開催してまいりましたが、確か昭和62年より、故人となりました竹田良輔、住谷吉彦、杉山清巳君等諸兄のご尽力により毎年開催することに決定、30回近く続きました。米寿を迎え、身体の衰え等の関係で出席者も年々少なくなり今回で一応終了することになりました。永年ご援助戴いた自彊会本部並びに出席下さった諸兄に感謝致します。

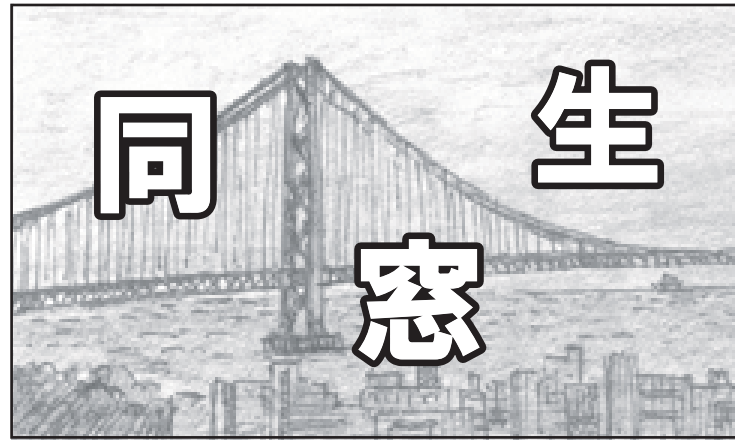
ハーモニカ 詩吟 学徒動員の歌 明中校歌ありの楽しい一刻でした。世話係・会計として故杉山清巳夫人も参加されました。

『年をとったら出しゃばらず 憎まれ口に泣き言に 人の陰口愚痴言わず 他人のことは褒めなはれ 聞かれりや教え

てあげても 知ってることも知らんふり何時でも阿呆でいるこっちゃ
わが子に孫に世間さま どなたからも慕われる ええ年寄りになりなはれ ポケたらあかんそのために 頭の洗濯生き甲斐に、何か一つの趣味をもって せいぜい長生きしなはれや』

松下幸之助氏の語録の一節にあるように今後は健康に留意し、ボケずに、周囲の人々に迷惑を掛けないよう好々爺となり、せいぜい長生きしたいものです。





高校八回

岡野 公英

私達、高校8回生は、4月より、なんと80歳の高いハードルを通過します。「八十の賀」の祝い・「傘寿」を記念する同窓会を平成28年10月17日にホテルキャッスルプラザで行いました。

「笑い」は健康の良薬とか。お互いの長寿を喜びあう主旨で、明石市出身の落語家、桂阿か枝(かつら あかし)さんを招いて催しに興を添えました。全員の記念写真、代表幹事茨木君、鳥飼さんの開会の挨拶、校歌斉唱、先に逝ったよき師、よき友に黙祷等々のあと会食・歓談へと移りました。



会場のあちこちの話題といえば『同期会、持病の軽重、競い合い』(神戸新聞イイミミの川柳)の様相を呈し、こと病気の自己主張にも『高校三年生』にプレイバックした真剣且つ滑稽なバトルさながらです。

申込み締め切り時の出席者は65名でしたが、同窓会本番直前になり、本人または配偶者などの止むに止まれぬ理由でのキャンセルで、出席者は57名となりました。高齢化の進む昨今、同窓会のやりか

高校十二回

佐々木 伸一郎

同期の会を平成28年11月8日(火)、舞子ホテルで開きました。24年以来、連続3回、2年に1回ずつの開催です。前回参加者が50人余りと激減し、今回も危ぶんでいましたが何とか60人が集合、初めて女性の数が男性を上回り、随分にごやかな会になりました。

初参加の魚住君の堂々たるスピーチに大拍手を送ったほかは、いつも通り何の趣向も無し。あちこちテーブルを回って、会場のいたるところでオシャベリ花が満開。幹事が何もしないまま、あっという間に時間がたって、気がついてみれば、残り半時間。その時突然、どこからか「おい、皆で応援歌を歌おうや」の声。そして盛大な拍手!

たもむずかしさを少し感じました。「次回もやりましょう。」と次期幹事もきまり、お互いの元氣な再会を約束してお開きになりました。

後日11月22日に今回の同窓会を運営した世話人の集いで、総括と慰労会を行いました。会計担当の石井さんの自彊会よりの支援金を含めた会計報告を全員承認し、次期幹事の嶋崎君に引き継ぎ書類、繰越金を送る事を決めました。



実は残り五分になったら「応援歌」そして、解散と予定していたのですが、：会場の雰囲気には勝てません。それから後は応援歌、応援歌、そして校歌、応援歌：最高潮に達したところで、少し早めにお開きにしました。皆 老化に負けず、元気で暮らそうね。

(お断り)

会が終わったところで、玄関前で集合写真を撮る予定でしたが、三分の一くらい集まったところで雨が。あゝ、これでは無理です。仕方なく少人数の寂しい写真を一枚撮っただけで断念しました。申し訳ありません。



卒業50周年記念

高校十五回

中山 二郎

平成28年4月21日ホテルキャッスルプラザを会場に、遅ればせながらの「卒業50年」記念同窓会を開催しました。熊本地震発生1週間後のことでした。地震の余波おさまらぬ中、準備の最終仕上げ作業に九州方面に住む4名の同窓生の安否確認を加えました。

「被災された方々には申し訳ありませんが、幸いにも4名とも揺れを感じたものの、日常生活に支障ある被害には遭遇されていませんでした」の幹事挨拶から始まった15回生同窓会、今回で9回目になります。

96名の71歳が、千葉・横浜・三重・東京各地から集合です。本年は卒業アルバム写真を名札の半分プリント、卒業当時の顔を胸に携えての対面となり、懐かしさもより一層高まりました。当たり前のことですが、参加したのは皆元気です。飲む輪、喋る和、和気藹々の雰囲気は昔仲間だからでしょう。70年の人生を生きてきた者どうし、お互いの健闘を認め合ってひと時を過ごしています。

ある者は、この機会に「仲良しグループ旅行」へと出発していきました。ゴルフの約束もできました。メールアドレスの交換も飛び交います。農業者の苦労話を熱心に語る者、同じ中学の出身であったと、この日初めて知った者。たった数時間ですがそれぞれに感慨深い時間でした。恩師の先生方も回を追うごとに足が遠のいておられますが、高齢にもかかわらず2名ご参加くださいました。感謝申し上げます。(小倉先生、武岡先生ありがとうございます)

さて、今回は10回目です。幹事を引き受けてくれたH氏は既に準備を始めて

れています。3年間卒業生の今を追いかけるそうです。ビンゴゲームの賞品はそれぞれの趣味の作品や農産物生産者直送などはいかがでしょうか、喜んでもらえる会にしたいものです。

皆さん又会いましょう3年後、それまで達者で過ごされんことをお祈りし、お開きといたします。



古希記念同窓会

高校十七回

石井 嘉門

平成28年10月16日、舞子ビラにおいて、80名の参加を得て「古希」を祝う記念同窓会が開かれた。参加者数は還暦のときより少し減ったものの、参加率としてはかなり高いものと思われる。今回は、恒例の挨拶等に続く参加者各人の現況報告がテーブル単位で同時進行にて行われたが、殆どが次のステージへ歩みだしており、悠々自適かどうかはともかくとして日常を楽しんでいる様子を窺い知ることができた。

一次会に引き続き二次会も同じ会場が開かれたが、退出する人は殆どなかった。ゲームやクイズなどで気分をほぐし、続く幹事面々の趣向を凝らしたカラオケが引き金となってその後は我も我もと引きを切らさない盛り上がりを見せ、想定外の詩吟の披露もあるなど誠に楽しいひと時であった。

17回生の同窓会はこれまでほぼ五年毎に開催され、今後も同様にと考えていた。しかし、リタイア組が多数派となったことや70歳台における5年先の不安感などから早い開催を希望する人が多かったのも今回の特徴であった。実際、全員が古来希な年齢に達しているわけで、長寿社会とはいえ押しなべて5年後の再会を約束できないことなどから、3年後の開催を望む声も宜ならぬことであろう。

ただ、開催の度に参加者数が減少していくことは寂しい思いをさせられる。同窓会は、遠くなっていく高校生時代への「旅」の誘いであり半世紀前へのタイムトラベルともいえ、何事にも代えがたい何かを内包していることを同窓生一人一人に伝え、できる限りの参加動員を図りたいと思っている。



高校二十二回

池内 満

年金記念同窓会を開催

平成28年8月13日、お盆休みを利用し、明石高校22回生の同窓会をホテルキャッスルプラザで開催しました。当日は、恩師の吉川泰先生をはじめ95名の仲間が集う盛会でした。1年半ほど前から約30名からなる準備会を組織し、相談を重ねました。その実、世話役が楽しく盛り上がる場でもありました。

折しも、大半の仲間が満65歳となり、めでたく？年金受給者となったので、「年金記念同窓会」と勝手に称し、大いに盛り上がったわけでもあります。午後2時に始まった会は、二次会も含めて5時間のロングランでしたが、久々の再会に話も弾み、酒もすすみ、意義深い一日だったと思います。

次に集まるのは3年後の卒業50周年記念となることですが、それまで健康管理に努め、ジジ・ババ臭くならず、一人でも多くの仲間に出会えること楽しみにしたいと思います。



高校二十四回

谷口 一彦

平成28年4月30日(土)、24回生の8回目となる同窓会を実施しました。幹事は「小学校長3人組」の伊興田、高月、そして私でした。そして、私たちを強力にサポートしてくれたのが学年理事の河合昭彦さんと3年前の「還暦同窓会」の代表幹事、松尾衛子さんでした。特に松尾さんには、10名余りのスタッフと次回(2020年)の幹事も手配していただきました。

当日は、高齢を押しして中嶋忠幸先生、高徳雄三先生、中尾健二先生にお越しいただきました。総勢75名の参加者でしたが、特にこれといってイベント的なものは計画をせず、全員がステージに上がり、お互いの近況を語り合いました。多くのものが定年退職後再任用等で働いていました。また、高齢の両親を抱え、介護にあっているものも多かったです。

終始和やかな雰囲気の中、3時間があっという間に過ぎてしまいました。引き続き別会場にて2次会も開催しましたが50名を越す参加者が22時まで旧交を温めま



した。
私たちは、4年毎のオリンピックが開催される年に同窓会を実施しています。
2020年は東京オリンピック。友達を誘い合い再会を誓い合いながら解散しました。



還暦記念

高校二十六回

上山 宏

「海の日」に対し、新しく「山の日」が祝日として誕生した平成28年8月11日、ホテルキャッスルプラザで26回生の還暦記念同窓会を開催いたしました。卒業してから2回目、前回から14年ぶりの同窓会で、住所の

わからない人も多く、何人の方が参加して下さるか心配しながら企画を進めていきましたが、当日は一八一名の同窓生と佐伯先生、武岡先生、衣笠先生、菅野先生、前田先生の恩師5名のご参加をいただき、盛大に会を開くことができました。



テージに上がり一人一人がマイクを持って、名前のみの自己紹介を行いました。スクリーンに映し出された卒業アルバムの写真と壇上の顔とを見比べながら、高校時代の顔と今の顔とがオーバーラップします。懐かしくも、時の流れを感じるひとときでした。
大勢の方々とは歓談するには、3時間という時間はとても短く、あっという間に過ぎてしまいました。元応援団のエネルギーに続いて、応援歌、明中校歌をみんなで歌い、最後は武岡先生の指揮で明高校歌



還暦記念

高校二十七回

永井 邦治

を大合唱して、楽しい会を終えました。その後、西明石の白木屋での二次会にも百名が参加して下さい、名残惜しい時間を過ごしました。
私たちが高校3年生の時、ちょうど明高50周年の記念の年でした。来る明高百周年の時、私たちは卒業して50年、68歳を迎えます。母校のますますの発展と同窓生の皆さんのご健康、ご多幸をお祈りいたします。

平成29年2月11日、ホテルキャッスルプラザにおいて、27回生の還暦記念同窓会を開催いたしました。

私たち27回生は、在校時代に流行した「ふれあい」という歌にちなみ「ふれあい会」という同窓有志の会を作っていますが、今回は当時の生徒会長であった大橋渡君を発起人として27回生全体での同窓会となりました。

恩師である高徳雄三先生、中尾健二先生にもご出席いただき、出席者は124名で写真室での記念撮影ではぎゅうぎゅう詰めの状況でした。

故人への黙祷、代表幹事のあいさつ、恩師からのご祝辞そして乾杯、歓談、楽しい時間はあっという間に過ぎてしま

ました。最後は全員で高らかに校歌を歌い、再会を誓い合いました。平均寿命が80歳を超えた今、還暦は私たちの第2の人生の始まりでもあります。元気で人生を楽しみたいものです。



高校三十九回

廣中芳範

昭和62年卒、高39回生の同窓会を昨年8月13日にANAクラウンプラザホテル神戸で開催しました。

学年全体の会は3回目ですが、卒業30周年の節目でもある今回は初めて実行委員会を組織し、約10ヶ月間準備を行いました。最も大変だったのはやはり消息追跡で、半数近くの約200名が現住所不明だったことです。

しかし、SNSなどで追跡して90%まで消息確認を進め、卒業当時の担任の先生方へも招待状を出すことができ、当日は卒業生79名と3名の先生方にご参加いただきました。

日本現代彫刻を牽引する作家の一人として高く評価されている彫刻家の棚田康司氏や、ドラマの主題歌やアイドルグループの紅白出場歌を手掛ける作曲家の成瀬英樹氏も神奈川県から駆けつけてくれるなど大盛況となりました。

今回このように大成功で終えることができたのも、明高の諸先輩方のアドバイスと、自彊会のご協力があったからこそと感謝しております。本当にありがとうございます。

高39回生の皆様、また周年の節目にお



会いできることを楽しみにしております。

39回生同窓会実行委員会

会長 廣中芳範

実行委員 一同

67回生 成人記念同窓会

学年主任 岸上郁夫

3月20日の春分の日、成人記念同窓会が開催されました。当日は好天に恵まれ、改装されたばかりの中部講堂に約120名の卒業生が集いました。

開会前には正面のスクリーンに高校時代の懐かしい映像が映し出されました。

会が始まり、67回生の学年団に関わった先生方から一言ずつ祝辞が述べられました。谷岡先生ははるばる名古屋から駆けつけられました。その後全体での記念撮影、同窓会からの景品を巡ってのクイズ大会へと会は進行し、同窓会からの軽食を頂き、旧友や先生方とあちらこちらで昔の思い出話に花を咲かせたり、近況を報告したりと和やかな雰囲気のもと楽しい一時を過ごしました。

高村光太郎は「顔はだれでもごまかせない。顔ほど正直な看板はない」と語りました。その人の生活態度が自然と顔に出るようです。自分の顔に責任を持てる成人になってくれることを願っています。

最後に、このような会の開催にあたりいろいろと尽力して頂いた同窓会並びに先生方や卒業生に感謝申し上げます。

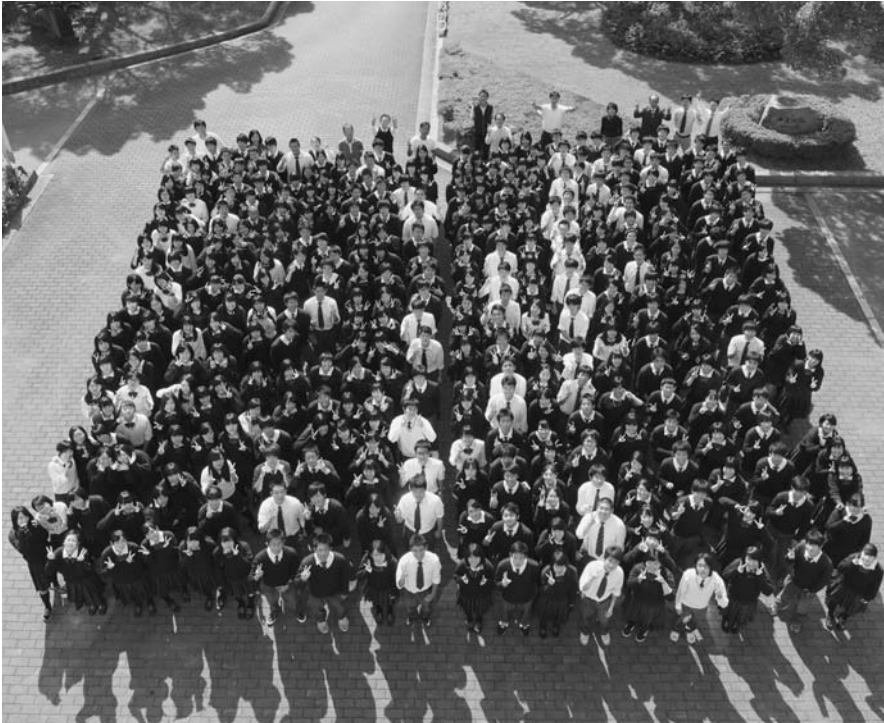


同窓会入会あいさつ

前山 颯 太 (高69回)

私たち69回生、351名はこの春明石高校を卒業し、それぞれ夢に向かって歩み始めました。

これからは、学生・社会人として責任のある行動をとれるよう成長していきたいと思います。同窓会では、互いに成長した姿で再会することができることを望んでいます。これまで同窓会の皆様には、学業やクラブ活動など様々な面でご支援をいただきました。そのおかげで、私たちは3年間充



実した学生生活を送ることができました。これからは、私たちも「自彊会」の一員として、母校明石高校をより良い学校にしていくため、大勢の先輩方と共に努力して行きたいと思えます。これからもご指導ご鞭撻いただきますよう、よろしくお願い致します。

自彊不息

このコーナーは、各界で活躍されている方、自分の夢を追い続ける個性のな方を紹介するものです。

名工を目指して

刀匠 清田次郎國悦氏

清田 裕希 さん (高46回)



棚田百選でも有名な和歌山県の山奥、有田郡に清田氏の仕事場(鍛錬所)がある。高校(美術科)を卒業してすぐ、刀匠 河内國平氏に入門を許され、2番目の弟子として技術を伝承、辛い修行を乗り越えての独立。一旦、刀作りが始まると、薄暗い鍛錬所で黙々と刀作りに精進ですという。

今は停滞期だと言って、仕事場での取材を快く引き受けて下さりました。和歌

山駅から仕事場まで車で1時間以上もあるのに、マイカーで迎えてくださり、道中も和やかに、自然豊かな風景を楽しみながらのドライブといった感じで。「刀匠」というより爽やかさが溢れる「現代のプロフェッショナル」といった感じの印象を受けます。

日本刀の美しさに奥深い魅力を感じる私にとっては大変興味深い取材となりました。(聞き手は常任理事 鷲森智美)

【文化を継承する刀を作る職人(刀鍛冶)は現在、350名ほどいますが、高校時代に「刀匠」という職業を志すきっかけは?】

美術科に入ってしまったけれどクラスの皆は頭も良いし絵もうまいし、自分は彫刻ならいけそうかな?と自負しはじめた頃かな。

高校2年生の秋頃、初めての進路調査で、油絵、彫刻、デザインなどを選択するなら、留学だと考えていたけど、経済的に考えると、現実ではないなど。美術系の大学を出て制作活動ができる場所に就職するなら、日本国内で仕事として成り立つ「刀匠」という選択もありかなと思いついたのがきっかけかな。

【親方(師匠)の河内國平氏との出会いは?】

まだ、インターネットも普及していない時代だったので、調べる手段が少なく

美術年鑑に掲載されている刀匠の連絡先を運まかせに手当りしたいと探してみるところも頭にあったが、大切な進路だと思い直し、日本で一番大きい日本刀専門の博物館(刀剣博物館・日本美術刀剣保存協会)が掲載されている刀剣書から調べました。高校2年生の1月に上京し学芸員の方々に紹介してもらい、3年生のゴールデンウィークを利用して、両親と共に師匠とお会いしたのが、初めての出会いでした。『5年居たら食べていけるようにした。その代り、カラスの頭が白い。』と言われたら「ハイ。」と答えなアカン。首に紐をくくってるわけやないから、いややったら、辞めたらええ。』と親方(師匠)からの言葉をいただきましたね。



【伝統工芸を継ぐという事について、後輩やその世界で活躍するために、教えた

仕事を3つ挙げるとしたら？」

- ①仕事を任せられる人になるためにも掃除をおろそかにしない。(親方の仕事の後の片づけは恐ろしい程情報の宝庫)
- ②自分には向いてないと思ったらすぐやめる。(常に自分と向き合い正直に生きる)
- ③「仕事」に特別な意識をもたない。(どんな職業でも同じでそれぞれのやり方(伝統など)がある)

【日本刀の魅力や刀匠としての誇りみたいなものって?】

日本刀はカッコいい!作ってて楽しいし飽きない。また仕事として奥が深い。「刀」という存在そのものに格があって、人間を超えたところに魅力を感じる。

【清田さんのこれからの目標は?】

まだまだ、刀鍛冶一本で家庭を守りながら仕事をすることはできませんが、かつての名工が私の刀を観て「こいつ、やるな!」と羨望したり、嫉妬したりするような名刀を作りたい。

仕事場の少し歪んだドアを開けた瞬間、炭の匂いと鉄の存在が五感を打つ。

ざっと見て、木の轡(かぶ)が目に入る。昔ながらの構造は今も変わらず、狸の毛皮を使うという内部を楽しそうに説明してくれる。

「ちょっと着替えてきます!」

白い作業服に衣を変えた清田氏に職人としての気配を感じる。

刀は、基本的に月に1振り、短刀は月に3振りしか作れない。そのひとつがいま、目の前でいきなり火造りされる。轡(かぶ)の風で炭が熱くなり、抜き出した赤い鉄をリズム良く打つ音の響きが心地よい。

危険な作業だと思いい、ちょっと気づいたことを聞いてみる。

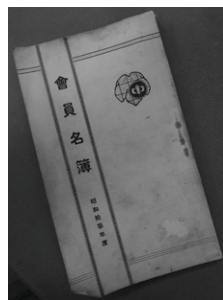
「ここには、神棚って祀って無いの?清田さん自身が安全に仕事を終える事ができるようになって。」

「あり。飾ってる人もいますけど。でも僕は刀の方に神様が宿って欲しいから。」

日本刀は武器として使用されていただけでなく、神への祈りを込めた奉納品、神器でもあることを改めて感じとった瞬間でした。



旧制明石中1511回生
卒業生2000人の名簿の寄贈を受ける



旧制明石中11回生(昭和3年3月卒)から11回生(同13年3月卒)まで約2000人の氏名、住所などを網羅した卒業生名簿冊子が1月、関東在住の人から善意の寄贈を受けた。

この方は、ある通信社(東京)の大阪に勤務されていた時、郷里神戸の新開地の古本屋で買われたとのこと。神戸新聞社を通じ、「お役に立てば」と寄贈の申し入れがあった。古い資料が散逸し現物がなかったため、同窓会として喜んで、いただくことにした。1月中旬、神戸新聞の取材を受けた。私、前川利一・同窓会顧問(中13回)、伊川美智子・副会長(高16回)、吉川一幸・野球部OB会会長(同18回)が出席したが、前川氏を中心に思い出話に花が咲いた。

1511回生はご健在なら105歳から95歳で、1月10日現在、住所判明者は50人。同窓会は6年後の創立100周年に向け、4月に100周年準備委員会を発足させたばかりで、このような資料の提供を歓迎している。(同窓会長・竹内)

支部だより

美術科支部

鷺森 智美 (高38回)

平成28年6月26日、母校資料館をお借りして、第10回同窓会美術科支部総会を開催いたしました。今年度は「美術科画報」の発行がなく、より広くお知らせする事ができませんでしたが、当日は遠方からもお集り下さり本当にありがとうございました。

議案として、会則の一部改正、新役員
の選出、新旧顧問の紹介、活動報告及び
計画、美術科画報発行について、関東支
部活動の報告等、また美術科支部活動の
通信手段としてFacebook等を活用し、よ
り多くの方々にも情報を共有できるよう、
幹事から新たに担当者を置き、支部のつ
ながりを深め活動の幅を広げていくなど
がありました。無事出席者の承認を得
て、総会を終える事ができました。



美術科棟見学

会終了後は、野田美術科長にお願いし、
外壁がリニューアルされた美術科棟をゆっ
くり見学させて頂き、当時は思い出す懐
かしい風景に、しばし浸ることができま
した。本当にありがとうございました。
総会后、支部恒例の懇親会には、まだ
時間もありませんので、スマイルギャリー
(アスピア明石)で開催中でした美術科26
回生の(高63回)中井久美さんの日本画
展に皆でお邪魔し作品を鑑賞。その後会
場を明石駅周辺に移して開催した懇親会
でも、美術科ならではの盛り上がりで今
回も若さ溢れる!?女子パワーに圧倒され
ながら楽しい時間を過ごしました。



支部役員会&岡村先生壮行会
~異世代交流会~

年々若い世代の参加や情報公開から回
生を広めての交流も増えてきています。
今後も会員の皆さまの親睦を深め活躍を
応援し、同窓会の発展に繋げていきたく
と思いますので、支部活動にもご協力、
ご理解頂きますよう、よろしくお願いい
たします。

現役の美術科生徒の活躍も素晴らしく、
県内でも数々の展示会を催し、コンク
ールなどの受賞者も多く、明石高校のプ
ラント力を向上し、新たな歴史と伝統を
引き継いでいきますことも誇らしく、また

期待しています。

『第32回明石高校美術科展』30+1展
卒業生30年の回顧と新たな出発』は、
平成29年1月12日から14日まで、兵庫県
立美術館をお借りし開催された。期間中、
1000名ほどの来場者にご高覧頂き大
変好評をうけました。美術館長や美術科
長をはじめ、多くの関係者にご尽力いた
だき、特別に、美術科卒業生の作品も賛
助作品として展示させて頂くことができ
ました。同窓会出品者からも「親子での
展示が叶ったり、美術科の懐かしさと共
に、後輩の力強さを感じ、刺激を受けた。」
とのお話もあり、作家活動などでも励み
になったのではないのでしょうか。

年度後半よりお話をいただき、急遽、
作品の募集やお手伝いにご協力くださっ
た方々、また出品者の皆さまにもこの場
をお借りして、重ねて、心より深く感謝
申し上げます。本当にありがとうございました。

6年後の学校創立100周年でも同窓
会が主催する記念すべき同窓美術展(仮
題)には、これまで以上に才能あふれ、
個性豊かな作品が展示されますことを心
から願っております。

最後になりましたが、皆さまには美術
科支部活動にご理解を賜り深く感謝いた
します。また、ご支援いただき本当にあ
りがとうございます。

平成29年度同窓会美術科支部役員表

- 会長 鷺森 智美 (高38回)
- 副会長 谷本 研 (高44回)
- (関西担当) 稲葉 展 (高44回)
- 副会長 阿随 秀昨 (高39回)
- (関東担当) 東 敬祐 (高39回)

- 会計 津村 陽子 (高40回)
- 監査 井上 恵子 (高39回)
- 顧問 佐藤江里子 (高52回)
- 幹事 (WEB担当) 上田 修平 (高56回)
- 幹事・運営スタッフ 田中 章博 (高40回)
- 若干名

【お知らせ】

同窓会美術科支部が運営する公式WEB
サイトのホームページを新しく開設いた
しました！今までのブログ・mixi以外にも
『明石高等学校美術科支部』Facebook@
meikoubijutsu
にて情報を配
信してまいり
ます。

第11回総会
開催のお知らせ
でも変更な
どがありま
したら、こちら
にも掲載しま
すのでぜひ、
検索ください！



美術科展会場

平成29年度 同窓会美術科支部 総会のご案内

下記にありますように、第11回多
し総会を開催いたしますので、よろ
しくお席いただきますようお願い
いたします。

記

期日 平成29年6月25日(日)
時間 14時30分より
(受付は14時から)
場所 明石高校 資料館

部活動 同窓会だより

音楽部

津野伸一(高12回)



2016年5月5日 明石市民会館ア
ワーズホールで開催された県立明石高等
学校音楽部第31回定期演奏会において、

我々OBにとって忘れられない故有永正
人先生の没後50周年特別演奏が献奏され
た。

行進曲「鬨の声」(須摩洋朝作曲)は
全日本吹奏楽コンクールで連続優勝を重
ねた先生が特に愛した曲であります。

今回ステージ参加のOBは高11回〜67
回の49名を数え、近來最多数で、往年の
明石高校OB吹奏楽団を彷彿させる風格
さえ感じることが出来ました。

会場には、大OBを始めとして多数が
参集。ホール2階に集合して旧交を温め
る様子が処々に見られました。

ステージ最後は御約束の「校庭行進曲」
の大合奏となり、客席のOBも全員が各
パートを声を張り上げて歌い上げ、大盛
会の内に、来年の再会を約して解散。

OB諸兄は遠隔地・仕事の合間を縫っ
て連休前一カ月間集中練習を重ね演奏会
に臨むこと31年。この継続こそが宝物で
あります。

また、OBを卒業した面々がなおドソ
ラド楽団を結成し各処慰問に向くなど
新しい活動も始まり、終わりになき明石高
校OBの魂の輝きを喜んでいきます。



ハンドボール部

顧問 寺口吉行

名将の定年を迎えて

18年間、明石高校ハンドボール部を指
導されてきた工藤昭彦先生が定年を迎え
られました。残念で寂しい気持ちやゆっ
くりと心身を休めてもらいたい気持ちな
ど、言葉では言い表せない複雑な心境で
す。工藤先生は全国的にも名将としてよ
く知られ、明石高校では夏のインターハ
イに2度、春の全国選抜大会には今大会
(平成28年度)を含め6度導かれました。
また、在任中、県内では常に上位入賞を
果たされてきました。

平成22年にわたしが赴任するまでは男
女共を指導され、手腕を振るっておられ
ました。この6年間は工藤先生が女子、
私が男子を指導することになり、たくさ
んのことを学ばせていただきました。指
導方法、戦術など限りありません。その
中でも特に、「勝負に対する執念」、「勝
つために準備すべきことは何か」、「本当
の努力とは」など、これらのことを肌で
感じる事ができたと思います。

現在、女子は全国選抜大会に向け、男
子は次のシーズンに向け、練習に励んで
います。男子においてはここ数年、県内
の上位にはいくものの、それ以上勝つこ

とができていません。平成9年度より全
国の舞台からは遠ざかっています。来年
度以降、工藤先生にいい報告ができるよ
う生徒たちと共に精進していきたいと思っ
ています。

工藤先生をはじめ明石高校ハンドボー
ル部監督は、故人の方を含め素晴らしい
指導者がおられました。私も現在53歳、
定年まであと6年、指導者として残され
た期間全身全霊を傾けたいと思っていま
す。そして歴代指導者の方々に少しでも
近づきたいと思います。



硬式野球部

大塚 弘一 (高15回)

今回は日本プロ野球界で50年近く活躍しているOB会メンバー、小谷正勝氏を紹介いたします。高校16回生の小谷氏は明高時代から本格派右腕投手としてプロ野球界から注目されており、1964年に明高卒業後、國學院大学を経て大洋ホエールズ(現横浜ベイスターズ)にドラフト1位指名で入団しました。ホエールズでは1968年から10年間、主力投手として好成績を残しましたが、なかでも1971年にはオールスターに出場し日本のオールスター史上唯一のノーヒットノーラン達成に貢献したことは今も我々の記憶に鮮やかに残っています。

現役引退後は現役時代の実績と指導力を買われ79年より現在に至るまでピッチングコーチとして大洋ホエールズをはじめヤクルトスワローズ、読売ジャイアンツ、ロッテマリーンズと37年間の長きにわたりグラウンドに立ち続け日本プロ野球界の第一線に身を置き、その間佐々木主浩氏や三浦大輔氏などをはじめとする10名以上の第1級投手を育てた実績は高く評価され、72歳となる今季からは再び読売ジャイアンツの巡回コーチとして、若手の指導に当たっています。

これだけ長きにわたっての活躍は他に例がなく我々OBの誇りです。小谷氏のおお一層の活躍と共に、古豪復活に向けて現役の野球部の精進努力を願うものです。

明中・明高ゴルフ会

吉川 一幸 (高18回)

平成28年度の活動について報告します。平成28年4月7日垂水ゴルフ倶楽部で第88回コンペを開催予定(参加44名)でありましたが生憎の春の嵐のため、誠に残念ながら中止となりました。

・28年10月13日、明石ゴルフ倶楽部で第89回コンペを開催。

今回も明高1回生から30回生まで幅広く、15組(51名)が参加。

優勝 木戸 正廣氏(高15回生)
準優勝 中山 勝彦氏(高15回生)

※昨年度より

春は垂水ゴルフ倶楽部(4月初旬)、秋は明石ゴルフ倶楽部(10月中旬)としております。

※引き続き新規会員の増強を図っていますので、皆様方のご入会を心からお待ちしております。

連絡先：自彊会ゴルフコンペ事務局

(株)ながい 078-936-0751

※次回(第90回大会)は4月6日(木)に垂水ゴルフ倶楽部で開催。

(尚、第91回大会は10月中旬頃に明石ゴルフ倶楽部で開催する予定です)

高13回生関東同窓会

須田 幸子

野田市で醤油のルーツを訪ねる



昨年10月28日、明石高校13回生首都圏同窓会が千葉県野田市で開催され、途中から雨が降り、寒い一日でしたが19人の方々が参加されました。

野田市はお醤油の街として有名です。今回はお醤油のルーツを訪ねて、古い醤油醸造家のお屋敷やキッコーマン「もの知りしょうゆ館」を見学、その合間にラ

ンチを楽しむ、という内容でした。

ランチタイムでは、お一人ずつ近況報告がありました。海外旅行や登山、ボランティア活動のお話など、ひやー！みんな元気すぎるやん！。えー！まだ仕事している人もいるって？、と大いに刺激を受けた皆さんのコメントでした。でも、もうすぐ故郷に帰ると話された方もいて、それはちょっと寂しいことでした。来年は次の幹事さんの企画で、横浜方面で開催される予定です。みんな元気で、また会えますようにと願っています。

高13回生ゴルフコンペ

井上 昌俊

平成28年5月23日、13回生の「第13回喜春(きはる)会ゴルフコンペ」が、明石ゴルフ倶楽部で12人の愛好家が参加して行われた。上位の成績は次の通り。

(敬称略)

- ・優勝 足立 正壽(グロス102、ネット69)
 - ・2位 森 三千雄(グロス104、ネット71)
 - ・3位 大塚 勝弘(グロス94、ネット73)
- ことしは、5月11日(木)に実施した。今年の第14回喜春会ゴルフコンペは、区切りの最終回の予定で行った。

お世話になりました

我が学舎を永久にまもる

前校長 永井 邦治 (高27回)



自彊会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にお過ごしのこととお

喜び申し上げます。

平素は、本校の教育活動に対し多大なご支援・ご協力を賜り心から感謝を申し上げます。

今年の2月に私たち27回生の還暦同窓会が行われました。私は校長という立場でもあり、同窓生達に受け継がれている伝統や生徒の現状などを話しましたが、皆さんからは当時を懐かしむ声とともに後輩頑張り、明高頑張りとの熱い応援をいただきました。私たちの回生だけでなく、多くの同窓生が同じように明高を応援してくれているのだと感じています。

4年前には90周年記念式典が執り行われました。次は6年後の記念すべき100周年に向けて準備を進めていくことになり

ます。自彊会では、古い資料の収集を呼びかけていくとお聞きしていますが、旧制中学校から高校にかけての貴重な資料が多数集まることを期待しています。学校においても、将来、校内の組織体制を構築し、自彊会、PTAの皆さんと連携しながら取り組んでいかなければなりません。

着任して2年があつという間に過ぎ去ってしまいました。この2年間、自分なりに力を注いできたわけですが、果たして母校に貢献できたのだろうかと思省せずにはいられません。

明石海峡を望む美しい景色、校内には多くの樹木や花、立派な中部講堂、おらかな校風など素晴らしい教育環境のもと、先生方や生徒たちは学業やスポーツ活動、学校行事等に意欲的に取り組み成果を上げてきてくれました。今後も伝統に培われた明高の良きところを継承しつつ、これまで以上に地域に信頼される魅力ある学校として発展してほしいと願っています。

我が学舎を守るため、今後も明高を応援する一員として微力ながら力を尽くしていきたいと思っております。

伝統を守りつつ

工藤 昭彦



昭和54年に時間講師として1年間明石高校に勤務し、教員生活がスタートし、18年前にふた

び明石高校にお世話になり、退職の年を迎えることになりました。ほんとうに明高には感謝の気持ちしかありません。

この18年間には、担任として3年間、生徒指導部長として12年間、生徒指導部副部長として3年間勤めさせていただきましたが、常に感じていたことは、大学を出た年にお世話になった頃の明高の空気でした。自由な雰囲気の中にあるのびのびとした空気、又きびしさや自主性が自由な空気の中にありました。

そうした良き伝統を守っていかないといけないと思いつきながら勤めてきました。人生の節目、節目に明高があり、多くの先生方にお世話になりました。又、たよりのない私の指導についてきてくれた多くのハンドボール部の部員たちにも感謝します。

最後に、明石高校と同窓会の益々の発展をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

熱さ

櫻井 博之



再任用の5年を加えると14年間、明高でお世話になりました。これ以前は自身の高校生活を含

めずっと加印地区で過ごしてきたことから、明石地区での勤務は新鮮であり驚きに満ちたものでもありました。なかでも61回生の学年主任としての3年間は多くの先生方のお力添えを得ながらの、青息吐息の連続で、いま思い出しても冷や汗ものです。また縁あって国際理解を担当し、生徒たちとともにオーストラリアの姉妹校を3度訪れ、多くの友人たちを得られたことも忘れ得ぬ出来事です。

昨今の若者気質の変化の早さ、大きさは広く知られるところですが、明高にあっては高校入試制度改革の影響により、その振れ幅はさらに大きいように実感します。しかし、そういったなかにあっても明高生の体育大会や明高祭に注ぐ熱さは変わらず、傍にいて嬉しく感じます。永く受け継がれてきたこの「熱さ」がさらに続くことを願って止みません。

明高で教師生活を終えられることに心より感謝いたします。ありがとうございました。

明石高校ありがとう

角野友昭(高42回)



「明石高校が大好きです。」
これが私の教員としてのスタートのすべてです。

思い出おこせば12年前、母校への赴任が決まった時は本当にうれしかったことを今も鮮明に覚えています。この12年間いろいろな事を経験し私自身も精神的に少しは成長できたかなと感じております。しかし明高のために何が出来たかと考えると何一つ出来ておらず申し訳ない気持ちと情けない思いでいっぱいです。特に野球部の監督として古豪復活にと努めてきました。私が私自身の力不足を痛感することばかりで関係者のみなさまに多大な迷惑をおかけしました。おわびを申し上げます。今後新しいスタッフでの甲子園出場を期待するとともに陰ながら応援したいと思えます。

最後に、明高は「人」を育てるすばらしい目に見えない力のある学校だと思います。この力は永遠だと確信しております。「明石高校が大好きです。」
明石高校ありがとう。

明石高校での9年間

上月賢司



9年前明石高校に赴任した時、明石海峡大橋を臨む壮大な景色や美しい花々、

そして歴史ある講堂に感動しました。明石高校では63回生は理系の担任、66、69回生は生命科学探究類型と理数探究類型の担任をさせていただきました。すべて思い出深い回生ですが、特に3年間クラス替えがない類型の担任は印象深く残っています。明高の入学式では中部講堂の雛壇の上にある入口から階段状の雛壇を一つずつ降りて生徒達は入学していきます。そして、卒業式では、光溢れる出口に向かい雛壇を一つずつ昇って卒業していきます。卒業式の時、一つずつ光ある出口に進む卒業生の背中を見送るのは感動的でした。それはまるで明高を巣立つ卒業生の未来が明るく希望に満ちている象徴にも見えました。これは明石高校の歴史が生み出した光景だと、私は思います。今後、明高の暖かくやさしい光が生徒達を包んでいくことを心より願っています。

ようこそ 明高へ

懐かしい母校

藤元弘樹(高32回)

この度県立須磨東高等学校から赴任してきました藤元です。教科は数学です。今は1年の担任をしています。式や入学式、また四月当初のオリエンテーションなどで久しぶりで校歌をききました。

37年ぶりに聞く校歌は耳に懐かし、望郷の思いに似た感情を感じています。

また、中部講堂が改修されて明るくきれいになっていたこと、在学中に足しげく通っていた山内記念図書館がなくなっていたことなどに時代の流れを感じます。

これからは微力ながらも後輩達の指導にいそしみたいと思います。よろしくお願ひします。

「自彊不息」

北山力也(高40回)

平成29年度より、教員として母校に帰ってくる事ができました。数十年前ぶりに見た母校は見た目こそ違えども、においや雰囲気などは変わらず、すぐさま青春時代に帰ることができる不思議な感覚に

見舞われました。

今までは母校明高を倒すべき相手、目標とする相手として見てきましたが、今は教員として生徒たちの希望に導き、OBとしてできる限りの支援を尽くしたいと思えます。

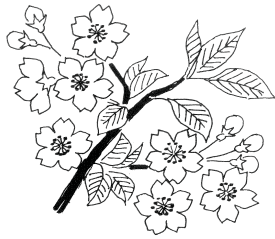
自彊不息の精神を忘れずに日々前進していく所存でございます。今後ともよろしくお願ひします。

よろしくお願ひいたします

荒田真友子(高59回)

今年度より、明石高校でお世話になります。10年ぶりに帰ってきた明石高校は変わらず、堂々と自彊が丘にあり、伝統ある母校に戻ってきたという高揚感に包まれました。

授業も始まり様々な生徒と対面しましたが、夢を語り合い、実現に向けて努力しあう生徒の姿を見て、自らも夢を追い、仲間や先生方に支えられて過ごした高校時代を思い出しました。今度は教師として、生徒の夢に寄り添い、共に未来へ歩いてゆけるような日々を、明石高校で送ってゆきたいと思えます。どうぞ、よろしくお願ひいたします。



着任された先生方

☆ 転退任 ☆

- 永井 邦治 先生 [校長] (退職)
- 工藤 昭彦 先生 [体育] (退職)
- 青山与志枝 先生 [地歴] (退職)
- 東田 純一 先生 [理科] (退職)
- 山田 達雄 先生 [国語] (退職)
- 高橋 俊幸 先生 [国語] (退職)
- 櫻井 博之 先生 [英語] (再任用退職)
- 國政美貴子 先生 [英語] (再任用退職)
- 福田 重人 先生 [国語] (再任用退職)
- 松井 友子 先生 [国語] (再任用退職)
- 角野 友昭 先生 [体育] (明石北高校へ)
- 上月 賢司 先生 [数学] (明石北高校へ)
- 白神 信行 先生 [理科] (西脇高校へ)
- 福島 香 先生 [情報] (東灘高校へ)
- 稲場 馨 先生 [理科] (姫路別所高校へ)
- (浜坂高校へ)

人

事

異

動

☆ 着任 ☆

- 三木 盛顕 先生 [美術] (県教委へ)
- 阪本 和樹 先生 [理科] (姫路南高校へ)
- 先田 広行 先生 [数学] (退職)
- 橘 可奈依 先生 [体育] (加古川北高校へ)
- 西畑 拓人 先生 [数学] (県西宮高校へ)
- 辺見 翔太 先生 [国語] (社高校へ)
- 和田 典子 先生 [実習] (村野工業高校へ)
- 清見 奈央 先生 [事務] (神戸野田学園へ)
- 河井 紳代 先生 [事務] (淡路高校へ)
- 喜多 孝浩 先生 [事務] (星陵高校へ)
- 蔭木 原洋 先生 [校長] (須磨東高校より)
- 青山与志枝 先生 [地歴] (明石高校より)
- 東田 純一 先生 [理科] (明石高校より)
- 山田 達雄 先生 [国語] (明石高校より)

- 伊藤 哲朗 先生 [国語] (明石北高校より)
- 石川真知子 先生 [国語] (三木高校より)
- 小野 加織 先生 [国語] (神戸工業高校より)
- 岩橋 嘉大 先生 [地歴] (氷上西高校より)
- 藤元 弘樹 先生 [数学] (須磨東高校より)
- 中村 伸也 先生 [数学] (豊岡高校より)
- 野内 仁輝 先生 [理科] (播磨農業高校より)
- 中村 健志 先生 [理科] (加古川南高校より)
- 北山 力也 先生 [体育] (加古川北高校より)
- 市毛 啓之 先生 [体育] (国際高校より)
- 岡部 直美 先生 [英語] (明石西高校より)
- 荒田真友子 先生 [美術] (飾磨工業高校より)
- 高石 耕平 先生 [情報] (三木高校より)
- 松本玲央奈 先生 [実習] (明石高校より)
- 橋口 翔太 先生 [事務] (新採用)
- 井垣 初美 先生 [事務] (北須磨高校より)
- 澤中日出雄 先生 [事務] (高砂高校より)

チャレンジ明高!!

29年4月進路結果

今年度の入試をふり返って

69回生学年主任
前田 浩人



平成28年度の入試結果が出ました。69回生の卒業・進路確定に

しては、多くの先生方の協力を得、またPTAや同窓会などからさまざまな支援を受けました。69回生の学年団・生徒を代表して、あらためてお礼を申し上げます。

さて今年度の進路結果ですが、全体的に生徒たちはよく努力し、頑張ってくれたのではないかと思います。国立大学においては63回生以来6年ぶりに京都大学への合格を果たし、大阪大学・神戸大学にも合格者を出しました。関西圏の難関私立大学にも、68回生との比較では少し数を減らしましたが、関西学院大学51名、関西大学56名、同志社大学

平成28・29年4月進路実績表

大学名	28年	29年
【国立大学】		
帯広畜産大	1	
北海道教育大	2	
筑波大	1	
群馬大	1	
東京海洋大	1	
東京藝大	1(1)	
信州大		1
滋賀大	1	
京都大		1
京都教育大	1	
京都工繊大		1(1)
大阪大		2(1)
大阪教育大	3(1)	1
神戸大	1	1
兵庫教育大	2	1
奈良教育大	1	1
奈良女子大	1	
和歌山大		1
鳥取大		2
島根大	1	1
岡山大	2	4(1)
山口大		1
徳島大	3	
鳴門教育大	1	
愛媛大		1
高知大	1(1)	1
琉球大		1
合計	25(3)	21(3)

【公立大学】		
はこだて未来大	1	
岩手県立大		1
秋田公立美大	1	
首都大東京	2(1)	
富山県立大		1
金沢美術工芸大	3	2(1)
愛知県立芸大	2	1
京都市立芸大	2	3(2)
大阪市立大	1(1)	
大阪府立大	1	1(1)
神戸市看護大	1	
兵庫県立大	12(2)	11(1)
奈良県立大		1
公立鳥取環境大	1	
新見公立大		1
岡山県立大	1(1)	3(1)
尾道市立大		1
県立広島大	2	
広島市立大	1(1)	1
沖縄県立芸大		1
合計	31(6)	28(6)
国立大学合計	56(9)	49(9)

【私立大学】		
自治医大		1(1)
青山学院大		1
慶応大		2(1)
国士舘大	1	
芝浦工大	4(1)	
多摩美大	13(2)	8(3)
東海大		1
武蔵野美大	7(2)	7
早稲田大		1(1)
明治大	1	
立教大	1	
金沢工大	5(4)	1
京都産大	2	12
京都女子大	1	
京都精華大	10(1)	7(1)
京都造形芸大	2	1
同志社大	20(1)	19(3)
同志社女子大	4	1
佛教大	5	1
立命館大	25(14)	7
龍谷大	13(1)	4(2)
追手門学院大	3	
大阪経大	11(1)	13(1)
大阪芸大		1
大阪工大	9(2)	24(4)
大阪電気通信大	8(1)	8
大阪薬大		1(1)
関西大	90(7)	56(3)
関西外大	13(1)	2
近畿大	57(5)	66(10)
大和	13(4)	
関西学院大	61(3)	51(8)
甲南大	81(4)	57(5)
甲南女子大	43(2)	20
神戸学院大	71(1)	86(3)
神戸芸術工科大	3	7
神戸女学院大	12	7
神戸女子大	30	15
神戸薬大	2	3
松蔭女子学院大	10	14
神戸親和女子大	11	6
武庫川女子大	35	18
その他	7(1)	109(6)
合計	754(58)	638(53)

防衛医科大学校		1(1)
国立看護大学校		1(1)
文部省管轄外合計	1	2(2)

短期大学合計	43	31
--------	----	----

専門学校合計	45	58
--------	----	----

就職・公務員合計	3	6
----------	---	---

数字は合格総数、()内は既卒生の合格数

19名など、ここ数年間では2番目に多い合格者を出しました。目立たないところでは、就職や専門学校への進学に関しても、

多くの生徒が第一志望での合格を勝ち取りました。しかし課題もいくつか残しました。国立大学への進学を目標とする文B・理系を、それぞれ2クラスずつ設けたにも関わらず、国立大学への入試出願はここ数年間では最も少ない人数でした。生徒の進路目標が、国立大学から近隣私立大学にシフトしてきたように感じました。これについては、「関関同立」への進学を奨める近隣の塾・予

備校の影響や本校に入學してくると生徒層の変化が背景としてあるのか、あるいは69回生だけの特徴であるのか、今後に向けて検討すべき事項と考えます。また69回生は、模擬試験などの結果から、上位層と比較して中位層の薄さを常に指摘されてきました。この問題点は「産近甲龍」の合格者数に現れました。近畿大学に関しては66名を出して健闘しましたが、県内の甲南大学への合格者数は57名とここ数年

では最も少ない数字でした。中位層をもう少し底上げ出来ていれば、上位層の進路結果も、もっと違ったものになったかもしれません。最後に、69回生のうち、今年度の進路結果が残念ながら不調であった者が40名程度います。この人たちが、自己の目標達成に向けて安易に妥協することなく最後まで懸命に努力を続け、来春には大輪の花を咲かせてくれることを願っています。

自彊セミナー報告

129名が参加
主要大学オープンキャンパス

28年度も「関関同立」のオープンキャンパス見学を中心とした自彊セミナーを実施し、2、1年生を中心に129名の参加があった。夏休み中だが学校教育の一環ととらえ、先生方の協力をえて制服姿の参加とした。

訪問した日時、大学、参加者数、引率者は次の通り。

- 7月31日 同志社大 ↓ 立命館大 23名
丹野孝広教諭、吉田眞司事務局長
 - 8月6日 大阪府大 ↓ 大阪市大 17名
山田達雄教諭、竹内信六会長
 - 6日 関学大 38名
中江 涼教諭、嘉藤弘之副会長、佐々木卓郎常任理事
 - 7日 関西大 26名
都留佳代子教諭、岩澤武常任理事、草川雄二監査
 - 12日 武庫川女子大 25名
田中稔大教諭、竹内信六会長
- 29年度から美術系の大学の訪問も考えている。



同志社大学



大阪市立大学



立命館大学



大阪府立大学



武庫川女子大学



関西大学



関西学院大学



明高よりバスで出発

伝統



写真部の活動

顧問 高橋 俊幸

写真部

写真部の目標は、「カメラを通じて、人や自然、社会と接点を持ち、自身の経験を深めてより感性を磨く」です。

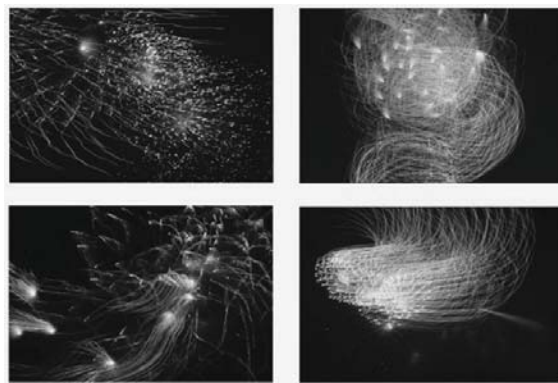


日々自分を磨き、春季写真コンテスト、兵庫県高等学校総合文化祭写真部門展、インターハイスクールカップ・フォトコンテストと年間3回の大会に参加します。前記2つの大会は、それぞれ近畿高等学校

校総合文化祭と全国高等学校総合文化祭の予選も兼ねています。近畿高等学校総合文化祭では、平成24年度和歌山大会、平成25年度三重大会に出展しました。また、全国高等学校総合文化祭では、平成27年度滋賀大会、平成28年度広島大会に出展し、平成29年度宮城大会に出展することも決定しています。「3年連続全国大会出展」となりました。インターハイスクールカップ・フォトコンテストは、大会運営・作品審査を生徒たちが行います。この大会で、部員たちは評価するポイントを身につけ、作品を見る眼を養っていきます。斬新な表現力が発揮される大会です。

校内では、明高祭に作品展示を行い、体育大会の記録写真撮影にあたります。また、放課後に各部の活動風景を撮影することもあります。休日や長期休業を利用して校外での撮影会なども実施しています。特に大会前は、部会で時間をかけて候補の中から作品選定を行い、出展する作品を決定します。日常の撮影を通じて候補作品を蓄積していく根気強さが求められます。「自分は何を撮影したいのか」、「撮影テーマをいかに絞るか」を考えることの繰り返しです。そんな試行錯誤を経て、はじめて「撮る楽しみ」が得られます。部員たちは、柔軟な感性と機動力を発揮して、作品作りに取り組んでいます。写真部の卒業生の中には、芸術学部の

写真学科に進学した生徒も複数おり、写真との出会いを自身の進路選択に活かしています。写真部での活動が、将来にわたって日々の時間をより豊かにしてくれることを願ってやみません。



「我流天星」 上出 晋也

女子ソフトボール部

1年間を通して

顧問 後 勇 至

「そこまで勝ちたくないです」勝負事には、常に勝つことを目標に戦ってきた私にとって、衝撃的な言葉でした。何のために練習し、誰のためにプレーしているかを、すぐに彼女たちに

問う事はできませんでした。

そんな状態のまま迎えた東播春季大会。特別な練習や練習試合もほとんど無く、今年度初めての公式戦でしたが、ベスト4までは順当に勝ち上がることができました。準決勝の対社戦。2-4のビハインドで迎えた最終回の攻撃。チャンスも作れず二死。私も負けを覚悟し、「初めての公式戦にしてはよく頑張った」と思っていたその時、三本のヒットと四球を絡め、逆転サヨナラ勝利を収めました。その勢いのまま次の試合も勝利し、県総体東播シード権を獲得することができました。予想外の結果に、私は嬉しいという感情よりも、なぜだろうという疑問を強く持ちました。夏の県総体はベスト16となり、選手達の目標はおおむね達成することが出来ました。

新チームとなり、夏季・秋季の東播大会も上位の成績を残すことが出来ました。が、シード権が獲れないまま迎えた県新人大会。初戦はシード校の柏原高校。実力的には五分五分と思いましたが、苦しい試合展開にも我慢を続け、なんとか勝利することができました。なぜ勝てるのかは疑問のまま、その後の接戦も制し、県3位まで勝ちあがる事ができました。大会が終わり、練習試合をしている中、ふと選手達の魅力に気づかされました。それは試合本番のここ一番に強い選手が

女子バスケットボール部

平成28年度を振り返って

顧問 大西裕久

平成28年5月に行われた兵庫県総合体育大会において、3年生最後の総体が行われました。1・2回戦は相手に苦しめられも善戦し、無事に勝利しました。3回戦では最後まで諦めずに取り組みも敗れ、3年生は引退しました。

多いという事です。凄いプレーをたくさんするわけではありません。どんな素晴らしい能力を持った選手でも、プレッシャーによってパフォーマンスが落ちる選手は少なくありません。しかし、むしろ普段以上の力や気迫を感じる場面が多くあります。これは明石高校の選手達が持っている貴重な能力だと思います。大会を通して勝ち上がる事の楽しさ、達成感を感じ、勝利への意欲を持つことができました。たくさんの方々を支えられながらプレーできる感謝の気持ちを胸に、これからも精一杯頑張りたいと思います。今後とも、明石高校女子ソフトボール部をよろしくお願い致します。



6月から1・2年生の新チームがスタートしました。新チーム発足から常に「3年生の結果を超える」を目標に、部員たちは昨年以上に走り込みやディフェンス練習など体力的にまた精神的にも辛い練習も頑張っており組んでいます。夏休みに入る頃には、部員1人1人が自分の成長を感じることができ、10月から始まる東播総合体育大会を楽しみにしていました。しかし、結果はそう甘くありませんでした。10月の東播総合体育大会や12月の新人大大会東播地区地予選ではどちらも県大会出場を逃し、悔しい思いをしました。

敗戦を味わっては次に向けて目標を掲げ日々の練習をひたむきに努力する部員たちを、私は誇らしく思います。確実に力はついています。県大会に出場した相手にも立ち向かえるようになってきました。チームワークも良くなってきて意見を言い合い、考えを共有するようになりました。あとは、「自分たちで成長していく」ことです。自分には何が足りないのか、上手な人と自分との違いは何なのか、上手な場に隠れています。それを享受するには自分のアンテナを張り巡らすことです。バスケットボールに貪欲になり、明石高校の建学の精神である自彊不息の精神のもと、自ら求めて学ぶ人となるよう、私自身微力ではありますが

空手道部

平成28年度を振り返って

顧問 田中稔大

指導を頑張りたいと思います。いつも明石高校女子バスケットボール部を応援して下さい。OB・OG・同窓生・地域の方々・保護者の皆さま、ありがとうございました。自分たちの得られる最大限の結果となるように頑張りますのでこれからも応援よろしくお祈り致します。



空手道部は最初は部員数1名からスタートした。ごくごく小さな部でした。それが次の年は7名の新生が入部し、平成28年度には新たに9名の新生が入部しました。気が付けば部員数17名の大きな部になっていました。部員数が増えたため、コーチご指導の下、相手と自分が組み合せて対戦する「組手」を日々の練習に取り入れることができるようになりました。これにより、部員のモチベーションが上がり、お互いに相手の良い面と悪い面が伝え合えることができるようになりました。部員一人一人の技術や能力が向上していきましました。おかげで東播春季空手道大会では、女子団体形と女子個人形で優勝、東播総体空手道



大会では、女子団体形と女子個人形、男子個人組手で優勝をすることができました。また1月に滋賀県大津市で行われた第36回近畿高等学校空手道大会にも出場することができ、女子団体形と女子団体組手でそれぞれ1回戦を突破することができました。これは部員達の努力があったのは勿論ですが、コーチのご指導や保護者や先生方、周りの方々のご理解とご協力がないと実現できなかったことと思えます。この場を借りて、改めてお礼を申し上げます。みなさま本当にありがとうございます。これからも明石高校空手道部を、どうぞよろしくお祈りいたします。

平成28年度決算報告 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

1 一般会計				(単位：円)
(収入の部)		予算額	決算額	増減
1	平成27年度繰越金	2,068,848	2,068,848	0
2	平成28年度年会費	7,800,000	8,187,000	387,000
3	財政調整基金より	3,400,000	3,400,000	0
4	雑収入(ご寄付、銀行利息等)	1,152	274,206	273,054
合 計		13,270,000	13,930,054	660,054
(支出の部)		予算額	決算額	増減
1	会議費(総会・理事会・本部役員会等)	900,000	685,010	△214,990
2	事業費(母校・学年等への支援・広報活動等)	8,920,000	8,457,702	△462,298
3	事務費(事務局・維持管理等)	2,880,000	2,843,064	△36,936
4	100周年積立金	557,000	557,000	0
5	予備費	13,000	0	△13,000
合 計		13,270,000	12,542,776	△727,224
収入合計13,930,054円－支出合計12,542,776円＝収支差額1,387,278円(次年度繰越)				
2 基金				(単位：円)
		(収入の部)	(支出の部)	
①	財政調整基金			
	平成27年度繰越金	378,000		
	在校生納入	3,195,000		
	一般会計へ繰り出し		3,400,000	
	次年度繰越金		173,000	
合 計		3,573,000	3,573,000	
②	自彊セミナー特別基金			
	平成27年度繰越金	1,452,744		
	銀行利息	17		
	活動費(大学見学バス借り上げ料等)		378,993	
	次年度繰越金		1,073,768	
合 計		1,452,761	1,452,761	
③	100周年記念事業特別基金			
	繰越金	443,000	0	
	28年度積立金	557,000	0	
合 計		1,000,000	0	
3 監査報告				
平成28年度の決算について、会計帳簿および関係書類を監査照合した結果、適正に処理されていることを確認しましたので報告いたします。				
平成29年4月6日				
		監査	加護谷榮章	印
		監査	草川 雄二	印

平成28年度事業報告 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

月	日	内 容	月	日	内 容
4	16	第1回本部役員会	9	10	第3回本部役員会
	23	会報第24号編集委員会(第3回)		10	自彊セミナー運営委員会(第2回)
	27	会報第24号編集委員会(第4回)	10	22	第2回理事会
5	7	第1回理事会		29・30	自彊セミナー「全統記述模試」(3年生)
	27	会報第24号発行	11	26・27	自彊セミナー「全統センタープレテスト」(3年生)
6	11	第2回本部役員会	1	27	第4回本部役員会
	18	平成28年度総会・懇親会(於グリーンヒルホテル)	2	18	第5回本部役員会
7	10	自彊セミナー運営委員会(第1回)		18	会報第25号編集委員会(第1回)
	31	自彊セミナー「同志社大学・立命館大学」見学		28	第69回生同窓会入会式
8	6・7	自彊セミナー「関西学院大学」見学	3	4	第3回理事会
	6	自彊セミナー「大阪府立大学・大阪市立大学」見学		4	会報第25号編集委員会(第2回)
	7	自彊セミナー「関西大学」見学		20	第67回生成人記念同窓会
	12	自彊セミナー「武庫川女子大学」見学			

同窓会役員

会長 竹内 信六(高13回)

副会長 安藤 勉(中18回)
伊川美智子(高16回)
佐々木卓郎(高18回)
和田 直樹(高28回)
鷺森 智美(高38回)

常任理事 嘉藤 弘之(高15回)
今村意一郎(高16回)
長塩 知子(高18回)
岩澤 武(高19回)
藤丸 達美(高21回)
田中 雅子(高23回)
竹林 秀野(高28回)
吉田 信次(高31回)
松村みなみ(高68回)

監査 加護谷 榮章(高7回)
草川 雄二(高11回)

顧問 藤木 原洋(校長)
前川 利一(中13回)
岸本 潔(中19回)
越智 聰明(高1回)
秋山 泰治(高1回)
松本 ヤス(高2回)
清水 正孝(高3回)
浅田 弘子(高6回)
茨木 智(高8回)
米澤 淑介(高12回)
三浦 宏(高14回)
松本嘉代子(高16回)

学年理事 (中1回)
(中3回)
(中4回)
松岡 謙治(中5回)
穂原 勝美(中6回)

(中7回)
(中8回)
(中9回)
(中10回)
(中11回)
(中12回)
前川 利一(中13回)
浅田 正行(中14回)
(中15回)
(中16回)
中尾 和一(中17回)
安藤 勉(中18回)
(中19回)
(中20回)
竹原 學(高1回)
浅田 博(高2回)
桃尾 行男(高3回)
溯上 初美(高3回)
赤松 信(高4回)
向井 勝夫(高5回)
木村 稔(高5回)
尾上てる予(高5回)
密谷 和正(高6回)
高德 雄三(高6回)
安藤 博美(高7回)
伊藤 雅子(高7回)
石井 清隆(高8回)
嶋崎 晴夫(高8回)
堤 明(高9回)
小山 孝治(高10回)
藤原 博(高10回)
柳瀬 弘(高11回)
佐々木伸一郎(高12回)
西川 真澄(高13回)
井上 健(高13回)
谷川 博男(高14回)
谷口 卓海(高14回)
手塚佳世子(高14回)
津野 弘子(高15回)
岡本 建二(高16回)
奥田 寛(高17回)
佐々木卓郎(高18回)
岩澤 武(高19回)
井上 利夫(高19回)

川井 功一(高19回)
尾谷三枝子(高19回)
池田 隆行(高20回)
村松 克行(高20回)
藤丸 達美(高21回)
池内 満(高22回)
南谷 雄司(高23回)
高木 文雄(高23回)
河合 昭彦(高24回)
瀬川勝太郎(高25回)
宮地 宏明(高25回)
上山 宏(高26回)
永井 邦治(高27回)
八木 雅史(高27回)
藤本 英子(高28回)
竹林 秀野(高28回)
木下佳代子(高28回)
小椋 利雄(高29回)
高橋 秀徳(高30回)
吉田 信次(高31回)
三木 翔理(高32回)
戎 義弘(高33回)
堀田 健一(高34回)
田方 宏幸(高34回)
井上利可子(高35回)
石下 景教(高36回)
(高37回)
西川 昌宏(高38回)
川端 大造(高38回)
廣中 芳範(高39回)
北山 力也(高40回)
梅田 光一(高41回)
谷口 正晃(高42回)
高雄 正臣(高43回)
(高44回)
本田 学(高45回)
藪内 健吾(高46回)
西山 武(高47回)
澤田 雅文(高48回)
(高49回)
(高50回)
芝 純司(高51回)
木村功太郎(高52回)
小島 一朗(高53回)

(高54回)
橋本 真彰(高55回)
村中 裕(高56回)
西角 千尋(高57回)
山本 芳行(高58回)
佐藤 匠(高59回)
竹内 裕貴(高60回)
和田 亮磨(高61回)
西山 直幸(高62回)
中下 将太(高63回)
小柴 智弘(高64回)
櫻井 拳人(高65回)
山内 圭哉(高66回)
平田 茉有香(高67回)
星野 優輝(高67回)
松村みなみ(高68回)
山澤 勇登(高68回)
前山 颯太(高69回)
豊田 萌夏(高69回)

兵庫県庁支部 田中 敬一(高26回)

神戸市役所支部

明石市役所支部 前田 豊(高29回)

淡路支部

東京支部 野呂 良久(高14回)

美術科支部 鷺森 智美(高38回)

事務局 木下 裕一(高15回)
吉田 眞司(高21回)
寺口 吉行(高34回)
上田 修平(高56回)

本部役員及び監査は総会で承認いただく予定です。

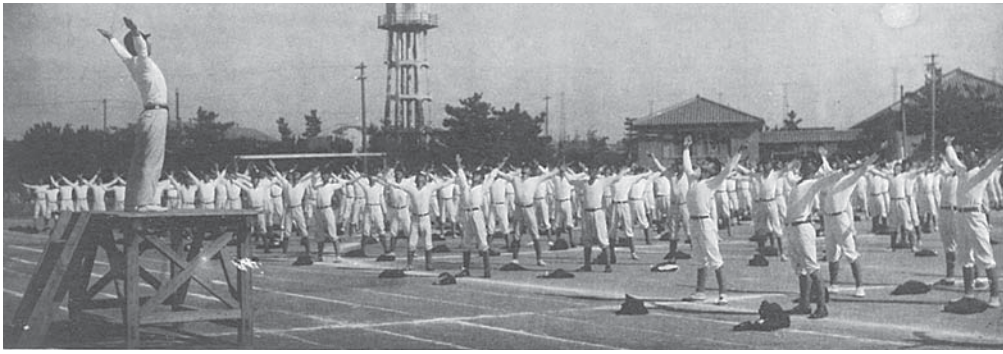
事務局よりお願い

- ① 転居されたときには新住所をお知らせ下さい。
 - ② お亡くなりになった方の連絡については、間違い防止のため、ご逝去の年月日を必ずお知らせ下さい。
 - ③ 学年全体の同窓会を開催される場合、支援金をお渡しします。代表の方は事務局へご連絡をお願いします。
 - ④ 事務局が常駐でないため、電話が繋がらないことも多いと思います。住所変更等の連絡は、ファックスが一番確実です。(FAX 078-913-6554)
 - ⑤ 同窓会運営の基礎となる年会費の納入に、ご協力をお願いします。お手数ですが郵便局ATMのご利用をよろしく願います。
- ※ 手数料(同窓会負担)
郵便局(窓口130円・ATM80円) コンビニ108円

お知らせ

- 高校13回生同窓会
期日: 2017年10月2日(月)
時間: 正午より
場所: グリーンヒルホテル明石
- 高校18回生同窓会
期日: 2017年10月15日(日)
時間: 午後4時より(受付午後3時より)
場所: 神戸メリケンパークオリエンタルホテル
- 高校28回生還暦同窓会
期日: 2017年11月4日(土)
時間: 午後3時より(受付午後2時半より)
場所: ホテルキャッスルプラザ
- 2018年
- 高校23回生同窓会
期日: 2018年5月20日(日)
時間: 午後4時より(受付午後3時より)
場所: 神戸メリケンパークオリエンタルホテル

なつかしの
明中・明高
写真館



1941

放課後準備に全力を注いだ
応援合戦、仮装行列、今なお続くフォークダンス。
素晴らしき青春の日々



1960



1959



1965



1971



1973



1976

編集後記

「佐々木さん、今日は何がうれしいことがあったかな。」
元町内会長さんが声を掛けてこられたのは2月末
のある日、明石高校の卒業式前日でした。その方は
もう十数年も毎朝登校中の小中高生で賑わう町内の
交差点に立ちスクールガードを務められています。
朝、いつものように交差点で立っていると一人の
明高生の女の子が寄ってきて「私は明日明高を卒業
します。3年間毎朝ここで私たちの安全を見守って
くださってありがとうございます。」と笑顔で言っ
てきたそうです。何気ない、ほんの一言だったのがご
本人は本当にうれしかったとおっしゃっていました。
知らない人とはなるべく話さない、家の中でもメー
ルかケータイで話すというご時世に、SNSに慣れ
た若い人が毎日の通学路でお世話になったとはいえ、
その方に対面して生の声で感謝の気持ちを伝えるの
はなかなか勇気が必要だったのではないのでしょうか。
卒業後、社会人になって多くの人と出会うことが
ありますが、初対面で最初に掛ける声はその後のコ
ミュニケーションに大きく影響します。名も知らな
いスクールガードの方に感謝の気持ちを素直に伝え
られたその子は、社会人になってもしっかりと「付き合っ
て気持ちのいい人」になってくれると思います。
会報25号をお届けでき、ほっとしています。卒業
生、在校生の姿が見えるように心がけました。ゆっ
くりご覧いただければうれしいです。
(卓)



発行：県立明石中学校
県立明石高等学校
同窓会（自彊会）
明石市荷山町1744番地
078 (913) 6554
印刷：（有）木下ブンセイ出版印刷